

問題・解答 用紙番号	9
---------------	---

の解答用紙に解答しなさい。

国 語

〈受験学部・学科〉

法学部、国際学部、経済学部、経営学部、現代社会学部、
理工学部(生命科学科)、薬学部、看護学部、農学部【文系科目型】

問題は100点満点で作成しています。

I 次の1～5の傍線部と同じ漢字を含むものを、ア～オのうちからそれぞれ一つ選びなさい。
(10点)

- 1 フウヒヨウ被害にあつ
ア ヒヨウギ会で決定される
イ 交通安全のヒヨウゴを作る
ウ 思わずヒヨウシ抜けする
エ ハクヒヨウを踏む思いだ
オ 選挙で支持をヒヨウメイする
- 2 資金をチヨウタツする
ア 顔をコウチヨウさせて語る
イ 国家間のキヨウチヨウを重んじる
ウ あの雲は雨のゼンチヨウだ
エ 試合前に相手をチヨウハツする
オ シンチヨウに物事を進める

3 努力が足りないことをシカクする

ア 二人の間にカクシツが生じる

イ ゴカクの戦いを繰り広げる

ウ 組織にはヘンカクが必要だ

エ 物事のカクシンに触れる

オ これまでの不正がハツカクする

4 コイに相手を傷つける

ア コリツ無援の状態で戦う

イ オンコ知新の精神を学ぶ

ウ リゴ的な考え方をやめる

エ ダンコとして反対する

オ コチヨウした表現をする

5 怪我のコウシヨウで新発見をする

ア 運転免許証をコウシンする

イ 春から新制度にイコウする

ウ 試合の後半からコウセイに転じる

エ SNSのコウサイについて考える

オ 健康保険証がコウフされる

II

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四五点)

A
「動物供養」は今、ブームである。インターネットで検索すると、趣向をこらした惹句を添えて「動物供養」にいざなうホームページが、いくつも並んでいる。まず最初に、そのうちから二、三の例を紹介しよう。

滋賀原の浄土宗・乙寺では、「生きとしいける、すべての生き物を葬る安住の場所」として「ペット塚」を建立し、ペットのお骨だけでなく、遺髪や装身具を埋葬し供養しているという。「ペット塚」に立てられた碑文には、次のようにある。

生きとし／生けるもの／すべて／仏性あり

新潟県の真宗・丁寺では、家族の一員として夢や希望を与えてくれたペットたちのために「慈愛堂」を建立し、毎年九月十五日の「動物法要の日」には多くの遺族が寺を訪れ、今は亡きペットを偲んでいるとのこと。すでに、犬をはじめとする二千体以上のペットの遺体が同寺で火葬・納骨され、浄土へ導かれたという。

また大阪府のある愛犬クラブでは、真言宗の僧侶を導師に迎え、愛犬供養の講習会を開いた。その法話の要旨は、供養とは、われわれの心に安らぎや和やかさを与えてくれた動物たちに感謝し報いるために行なうもので、とりわけそれらの動物によってわずかでも利益を得た人は決して供養を怠つてはいけない。供養の目的は、亡くなった動物を早く「無」にしてやるためであり、人はそれによって初めてほんとうに心の安らぎを得ることができる、というものであった。

このような動物のための供養は、歴史的には明暦の大火における横死者の回向から始まった両国回向院が、そのうち動物供養にも積極的に乗りだしたという経緯にもとづくものだが、現代の、格式ある寺院から新興寺院までが足並みをそろえて「ペット供養」を売りものにする光景は、やはり

i

しかし、これら営利に傾いた動きとは対照的に、たとえば、公営・民営いずれであれ食肉精肉用に牛や豚などを屠畜解体する施設において、畜魂祭などの名をもつ供養・慰霊の祭事が主に神官を招いて催される慣行がつづいていること、各種の動物園では春秋の彼岸などに園内の鳥獣魂碑の前で飼育中に死んだ動物の慰霊祭を行なっていること等を見ると、動物を供養の対象とする観念が決して一時のブームや流行ではないことに気づく。

あるいは、少々特異な「動物供養」の例としては、現在も靖国神社で行なわれている軍馬供養や軍犬・軍鳩の供養があげられる。それらは、戦没軍馬慰霊像奉獻協賛会などという名をもつ旧軍関係者の団体が主催するのがふつうだが、行事そのものには中央競馬会や現在の自衛隊関係者も参列するということであり、これが決して旧軍時代の形式的な反復にとどまらないことに留意すべきであろう。

ネット上に流れる現代ふう「供養」の風景の底流には、このような錯綜した「供養」の心性が存在していると見るべきだと思う。

ところで、^B仏教の「供養」とは、「仏、菩薩、諸天（神）などに香華、灯明、飲食などの供物を献ずること」（平凡社『世界大百科事典』）、あるいは「仏法僧の三宝に対し、真心から花・香など供物を捧げること」（石田瑞麿『例文仏教語大辞典』）を意味するものとされている。そしてその実際上の起源は、僧団にたいして種々の品目を献納することで僧団内の出家者の生活をささえるという目的に由来していたようだ。初期僧団において、供養の主たる中身が衣服・飲食・臥具・湯薬の「四事供養」（増一阿含）とされていたところを見ても、供養というものの実用的な側面がよくわかるだろう。言い換えるなら、僧団が外護者に要請する実生活上のサポートという機能を離れては、仏教の供養概念を正当に理解することはむずかしい。

のちの『法華経』が説く「十種供養」（花・香・^{ようろう}環珞・^{ぼくろう}抹香・塗香・焼香・^{えんし}繪蓋・^{ぶつぼん}幢幡・衣服・伎楽）の構成を見ると、そこでは実生活上のサポートというよりも、仏にたいする儀礼的宗教的な奉仕という性格が強くなっているのがわかるが、かつてのように僧団出家者が生活するうえでの必要物資を供給するという側面がなくなったわけではないことも明白だろう。

ところが、やがてこうした「もの」の施与に加えて、さらに「こころ」の奉仕が供養の重要な要素となる。たとえばそのことは、『十地経』における「三種供養」（利供養・敬供養・行供養）のような供養の内容や形式にもとづく分類が行なわれるところからも明らかである。すなわち、供養はたんに僧団にたいする物的な支援であるにとどまらず、ひろく仏教的な「聖なるもの」にたいする外護者側からの物心両面のサーヴィス全般をさすようになっていくのであった。

いずれにせよ、そこに一貫しているのは、供養が、「俗なるもの」が「聖なるもの」に自己を関係づけようとする儀礼行為の一つであるという点であろう。このことから、不殺生を特色とする仏教的な供養（*gijā*）が動物犠牲であるバラモン教の供犠（*yajña*）との対抗関係のなかで創出されたという歴史的な経過、言い換えれば、供養が供犠の一変種であることが判明する。

では日本仏教において、たとえば堂塔供養や鐘供養のように、供養の対象を特定した仏事として供養が行なわれたり、それがやがて民間儀礼では針供養、人形供養、^{ちやぎん}茶筌供養などのヴァリエーションを生んで年中行事化していったこと、さらには供養の対象がそのような「もの」から「死者の霊」へと転じ、死者の成仏のために子孫が行なう追善供養こそが供養の中心になっていった事実、上記の点とどうかかわるだろうか。

あるいは、死者にたいする追善供養の形式が動物にたいしても適用され、牛馬のような家畜、鯨・イルカといった哺乳類のみならず、鳥供養・虫供養のように生きもの全般におよぶ勢いを見せたこと、ii、そうした生きものを対象とした供養は動物の範囲さえ越えて植物にまでひろがり、山形県置賜地方の草木供養塔のような例さえ生み出したという経過も注目される。冒頭で

も紹介した動物供養は、歴史的には近世期の画国回向院の例にまでさかのぼるとはいえ、むしろ現代の寺院経営の iii たるペット供養として脚光を浴びているし、また後者の草木供養では、かつての供養塔建立が郷土の先人によるエコロジー意識の先駆けとして顕彰³されるなど、いずれもきわめて今日的な性格をもった現象として再浮上している点には格別考慮をはらうべきであろう。

このように、供養といえはあたかも死者の追善供養をさすかのように思われている日本にあつて、いわば供養の心性と名づけるべきものは現代的な装いをまとって根強く生き延びている。以下においては、そうした供養の心性の現代的な局面を視野に入れつつ、それらをとおして見えてくる現代日本の自然認識や生命感覚について、いくつかの私見を述べるものである。

唐突な話題のようではあるが、医学や薬学研究における動物実験の倫理性の問題については、これまでさまざまに議論がたたかわされてきた。また、とりわけ欧米社会では動物実験が「アニマル・ライト（動物の権利）」の観点から過激な反対運動の標的となつてきたことも、よく知られるところである。そこでは、動物実験を倫理的に是認するか否かを最終的に決着すべく、相反する立場が真つ向からぶつかり合い、医学界や製薬業界、さらには社会全体がこの問題をめぐって二分するおもむきすらある。

だが、幸か不幸か日本においては、問題はそういうかたちでは先鋭化していない。そのことと関係があるのかどうか即断するのはむずかしいが、この問題に関連する国内の現状として、次のような日本の事情が指摘されることもめずらしくない。

「わが国では、相当数の動物および教育施設で研究のために死亡した動物のための慰霊祭を行つているが、この実験動物慰霊祭は、外国人からみると仏教思想に大きく影響された不思議な特徴として捉えられている。仏教ではいきとし生けるものすべての尊厳を教えているため、動物に対しても人間と同様、魂をまつることは疑問視されない。」

このように、日本においては大学病院やそれに付属する動物実験施設でマウスやイヌなどの実験動物にたいする慰霊祭が仏教思想にもとづいてごく普通に行なわれており、それは医学研究にかぎらず、動物を使用する他の自然科学研究の場合においても大差はない。そしてそれらの場合、当該研究施設の責任者が慰霊行事の主催者となり、僧侶が招かれ焼香・読経・献花が行なわれるなか、参加者全員が実験や研究の途上で生命を落とした動物たちの冥福を祈るという形式で進行する。こうした儀礼行為は、欧米の人類学者の目から見れば、学問的に調査・記述されるべき異文化の一例だということになるだろう。

動物がこのように慰霊の対象となり、しかも公的な研究機関で上述のような慰霊祭が定期的に行なわれることしたい、まず第一に、それら宗教色の濃い行事を主催するのが靈魂や死後の世界といった宗教的觀念から解放されているはずの先端的な科学者であるという点において、つづいて、その慰霊対象が人間ではなく動物であるという点において、欧米社会からは二重の意味で奇異な現

象だと見なされるのである。

ところで一方、こうした慰霊行為が仏教の「供養」の觀念に直接由来していると信じて疑わないのは、決して先の論者らにかぎったことではないだろう。むしろおおかたの日本人は、人間も動物もふくめ、この地上に生を受けたすべてのものはひとしく苦しみを負う存在だということ、そしてその苦しみから自由になるのは、死んだあと「供養」を受け成仏してからだという感覚を、漠然とではあれ共有しているように見える。動物実験で生命を落とした生きものの場合であれば、彼らがこうむった苦しみが癒され安らかに成仏するために「供養」を欠かすことはできず、それは、ともに苦しみを負う存在たる人間の当然なすべき義務なのである、というふうに。

だが、先に見たとおり、そもそも死者にたいする「供養」はインド仏教の当初から存在したものではなく、むしろ中国での儒教的な祖先祭祀に仏教がすりよった結果であり、またそのような仏教ふうに色づけされた祖先祭祀が日本社会にも受容され浸透した結果であつた。ましてや、それが動物にたいしても適用されるなどという事態は、仏教式供養のきわめて新しいオプションなのである。

そのことを配慮してか、専門的な立場からの解説では、それが仏教教義と齟齬^{そご}を来たさないように言いなおされることになる。たとえば、一切衆生はことごとく輪廻^{りんね}の鎖につながれた存在であつて、その苦しみの連鎖を断つて涅槃^{ねはん}にいたるためには、読経や念仏などといった追善のための善根を「回向」してもらふ必要がある、と。だが、そうした「回向」の論理が動物にたいしてもあてはまるのかどうかについては各宗派とも明言を避ける傾向にあり、動物供養が仏教教義から見て正当な行為であるかどうかは、それぞれ現場の僧侶にまかされているのが現状のようである。

いずれにしろ、外来の仏教が民俗的な祖霊信仰と渾然^D一体化するなかで形成された日本人の宗教感情において「供養」の觀念はさまざまな様相をしめしてきたし、現代においてもそれは新たな展開を予告しているように見える。

それを歴史的にさかのぼって考えるなら、たとえば平安期までのいわゆる貴族仏教においては、供養の対象を堂塔・經典・仏像・鐘などに限定して荘嚴な法要を執行するのが流行し、おそらくそうしたシヨウ化^{ショウカ}した貴族社会の供養に影響された民間儀礼として、針供養、人形供養、茶筌供養などが年中行事として定着し、ひろく行なわれるようになっていったようである。そこには、仏教的聖性を具備する堂塔・經典その他の事物にたいする供養の延長上で、使い終わった生活上の用具に擬似宗教的な聖性を想定して供養の対象とするという、^{*}アニミステイックな精神風土が介在している。こうしたいわば供養の「日本化現象」のコンテクストのうちに、動物供養や草木供養があるのはもよりのことである。

(中村生雄『祭祀と供養』一部改変)

* 明暦の大火……明暦三年(一六五七)に江戸の市中の大部分が焼失した火事。

*涅槃……仏教で、すべての煩惱が消えて悟りの境地に達すること。

*アニミスティック……animistic 自然界のあらゆる事物に靈魂が宿ると考える様。

問一 波線部 1～3 の言葉の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エのうちからそれぞれ選びなさい。

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1 錯綜した | 2 ヴァリエーション | 3 顕彰される |
| ア 誤解に満ちた | ア 変化したもの | ア 記憶に留められる |
| イ 複雑に入り組んだ | イ 豊富なもの | イ 功績がたたえられる |
| ウ 本来とは逆になった | ウ 細々としたもの | ウ 世間でうわさされる |
| エ 理解不能に陥った | エ 類似したもの | エ 広く認知される |

問二 空欄 ～ に入る最も適切な言葉を、次のア～エのうちからそれぞれ選びなさい。

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| i ア 特筆に値する | ii ア それどころか | iii ア 金字塔 |
| イ 鼻持ちならない | イ それとは別に | イ 急先鋒 |
| ウ 筆舌に尽くしがたい | ウ それにもかかわらず | ウ 新機軸 |
| エ 人目に余る | エ それによつて | エ 真骨頂 |

問三 傍線部 A 「動物供養」は今、ブームである」とあるが、現在行われている「動物供養」はどのようなものか。次のア～オのうちから、適切でないものを一つ選びなさい。

- ア 宗派や地域に関係なく行われている。
- イ 戦中の軍馬供養をきっかけに始まった仏事である。
- ウ 動物の骨だけでなく毛なども埋葬することがある。
- エ 新興寺院だけでなく由緒ある寺院も行っている。
- オ 葬儀だけでなく毎年法要が行われるところもある。

問四 傍線部B「仏教の「供養」について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

- ア 初期僧団では、出家者が真心をもって花や香といった供物を仏や菩薩に捧げる行為を「供養」と称していた。
- イ 初期僧団では、出家者が人々からサポートとして受けた衣服や飲食を「供養」として仏に捧げていた。
- ウ 『法華経』を見ると、「供養」から僧団の出家者に対する物資の補給という性質が失われたことがわかる。
- エ 『十地経』などからは、「供養」は僧団に対する物的な支援に加えて心的な奉仕も指していたと考えられる。
- オ 仏教の「供養」は、「俗なるもの」であったバラモン教の供犠を「聖なるもの」に転換した結果生まれた。

問五 傍線部C「動物実験の倫理性の問題」とあるが、実験動物の慰霊について述べた次のア～オのうちから、適切なものを二つ選りなさい。

- ア 欧米社会では「アニマル・ライツ」の観点から、実験動物の慰霊が倫理的に是認されるか否かはしばしば社会を二分した議論となる。
- イ 日本では動物実験の倫理性があまり問題とならないのは、実験動物のための慰霊祭が行われていることが社会に知られているからである。
- ウ 日本では仏教思想に基づいて実験動物の慰霊行事が行われており、参加者によって動物たちの冥福が祈られている。
- エ 日本では宗教的観念に拘束されないはずの科学者が実験動物の慰霊祭を行うために、欧米社会からは批判の対象となっている。
- オ 実験動物に対して人間にすると同じような慰霊行事を行う日本の習慣は、欧米社会には奇妙に映っている。

問六 傍線部D「日本人の宗教感情において「供養」の観念はさまざまな様相をしめしてきた」とあるが、本文において現代の動物供養はどのようなものとして説明されているか。次のア～オのうちから、適切なものを二つ選びなさい。

ア 動物供養の背景には、人も動物も死後に供養を受けることで苦しみから自由になるという、多くの現代日本人に共有される考えがある。

イ 現代日本人は供養の本来の意味を理解しておらず、苦しみを負う存在である動物の供養をするのは人間の義務であると誤解している。

ウ 動物に対して供養が必要であるという現代の考えは、当初のインド仏教ではなく、中国において儒教的な祖先祭祀をもとに作り出されたものである。

エ 現代の日本仏教の多くの宗派が、動物供養が仏教教義からみて正当な行為に当たると明言できないために混乱に陥っている。

オ 現代の動物供養や草木供養は、民間儀礼の針供養や人形供養など生活用具を供養の対象とする風土の延長線上にあると言える。

III

次の文章は、「カッコいい」という概念を論じる中で「かわいい」について触れたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。(四五点)

近年の「かわいい」研究の先駆けとなった『「かわいい」論』の中で、四方田犬彦^{よしもとたいぬひこ}は、女性誌の「かわいい」表象の細分化を分析し、十代後半の女性誌が、なぜ「かわいい」を表象する「モデル(人格)」を必要とするかについて考察している。¹「かわいい」だけでなく「かわいい」人が必要だというわけだが、「重要なのはモデルの人格の実質ではなく、彼女が人格として(休暇の、家族の、友情の)物語を生きているということである。物語こそが夢見られた同一化の対象なのだ。」と四方田は指摘する。二〇〇六年に刊行されたこの本での「かわいい」物語の消費が、今日、むしろ女性誌からインスタグラムやフェイスブックといったSNSに舞台を移しているのは周知の通りである。

「カッコいい」ものを発見するのは、言わば「自分探し」であると指摘したが、それは、「かわいい」においても同様だろう。

A、お手本となる「カッコいい」あるいは「かわいい」ものや人は、多くの人にとって必ずしも容易に見つかるわけではなく、それを教えてくれるガイドが必要となる。男性誌や女性誌の「カッコいい」「かわいい」指南は、本来、個人にとっての個性的な理想であったはずの「カッコいい」「かわいい」を画一化する。メディアのこの機能が、流行の形成に大きな役割を担っていることは言うまでもない。

四方田は、「かわいい」の語源を「顔映ゆし」に遡り、その語誌を確認しつつ、今日のこの語の多義性を次のように列挙する。

「小さなもの。どこかしら懐かしく感じられるもの。守つてあげないとたやすく壊れてしまうかもしれないほど、脆弱で儂げなもの。どこかしらロマンティックで人をあてどない^a夢想の世界へと連れ去ってしまう力をもったもの。愛らしく、綺麗なもの。眺めているだけで愛くるしい感情で心がいつぱいになってしまうもの。不思議なもの。たやすく手が届くところにありながらも、どこかに謎を秘めたもの。」

私たちは、ここに更に、明るいもの、健康的なもの、パツとしているもの、癒されるもの、……と更にいくらでも付け加えることが出来ようが、その理由は、「カッコいい」と同様に、これらに触れた「経験する自己」の生理的興奮を、「物語る自己」が「かわいい」という言葉に一元的に回収してしまったからである。結果、再びその「かわいい」が何だったのか、ニュアンスの違いを説明するために、²「キモかわいい」だの「エロかわいい」だのと、細分化された造語が生まれていった。

³「カッコいい」との対比で注目すべきは、「懐かしさ」が挙げられている点である。幼い、か弱い

存在に対して抱く「かわいい」という感覚には、なるほど、自分がそうになりたいというより、自分もそうだったという幼少期の自己の追体験という一面がありそうである。

その意味では、憧れの存在に、自分の「未来」を重ねようとする「カッコいい」に対して、「かわいい」は「過去」を見ている、ということになるのか？ しかし、ファッション誌のモデルへの憧れは、「かわいい」であつても、やはり理想的な将来像と考えるべきだろう。

四方田は、『枕草子』にまで遡る「かわいい」ものを愛でる日本的な感性を指摘しつつ、今日の世界的な「Kawaii」ブームを、「日本文化に深く根ざした特殊なものであるがゆえに B される」のか、「それとも世界中の人間が享受しうる、ある種の文明的普遍性をもっている」のか問うている。勿論、メイド・イン・ジャパンの「Kawaii」文化は、近代化以降の欧米文化とのハイブリッドの産物であり、しかも、それが巧みであつたということ自体も、今日のアジアを見る限り、必ずしも日本に特殊とは言えない。

また、文化的に「無臭化」されたことで、日本的な「かわいい」がグローバル化されたようでいて、実際は、やはり「日本的」なものとして享受されているのではないか？ あるいは、それは各国のローカルな「かわいい」感性を刺激したのか、と、いくつかの視点を紹介しつつ、結論は留保されている。

同様に、「かわいい」を「日本的」と言えるのかどうかという疑問については、『幼さという戦略「かわいい」と成熟の物語作法』で英文学者の阿部公彦^{まほらひ}も指摘している。

阿部は更に、「かわいい」の英訳が cute でいいのかどうかを検討しつつ、「英語で cute という語を女性に対して使うと、どうしても見下すようなニュアンスが入ってくる」とし、同様の事態は「かわいい」に関しても生じ得るとしている。

「たとえば男性に対して女性が『かわいい人ね』と言えば、『考え方がわかりやすい』『単純』といった含みが入り得るだろうし（だからといってそこに好意がないとも言い切れないが）、女性に対してでも、仕事に^b邁進^{まいしん}している最中の女性に「かわいいね」と声をかければ、どこか相手の勤務態度の足をひっぱるような敬意を欠いた発言に聞こえる可能性がある。場合によってはセクハラととられかねない。」

つまり、「かわいい」は「カッコいい」同様に、憧れの対象に向けられる言葉ではあるが、「カッコいい」と違って、状況によってはどことなく小馬鹿にした意味にもなり得る、ということである。それは「かわいい」の中でも、恋愛対象、性的対象、庇護^{ひご}対象として、男性の側から発せられる「かわいい」であつて、いずれも職場という環境では不適切に違いない。

「カッコいい」にあつて「かわいい」にない最も重要な違いは、「戦い」のイメージである。^{*}ミルトンのサタンに見た通り、「カッコいい」存在は何かと戦つて打ち勝とうとするが、「かわいい」存在は刃向かわないイメージで、しばしば自立しておらず、庇護を必要とする。

C、一九九〇年代以降、女性の社会進出とともに、「かわいい」ではなく、女性にとっての「カッコいい」が求められることとなったのだった。

「カッコいい」には「人倫の空白」を埋める機能があるが、これは、「男らしさ」とは違って、ジェンダーレスの美德たり得るのである。

一九九〇年代以降、女性に「カッコいい」という言葉が用いられるようになった経緯の一つとして、ポップスの中にダンスチューンが増え、一般化していった、ということもあるだろう。安室奈美恵やMAX、TRF、SPEEDなどが活躍した九〇年代は、女性の歌手やグループの切れ味鋭いダンスに、若いファンたちが熱狂した時代だったが、彼女たちは決して「かわいい」だけでなく、「カッコいい」存在でもあった。

八六年には、男女雇用機会均等法が施行され、職場における男女差別が法的に禁止されることとなり、更に九七年に一部改正されて、女性が管理職に就く道が開かれるようになると、男性社員に「かわいい」などと言われるO.Tとは違った、「カッコいい」理想像が必要とされるようになる。ダンスに長けた歌手たちが、「しびれる」ような非日常的な理想像であったのに対して、働く女性たちには、むしろ「^{*}嗜好が良い」の意味に近い、職場での日常的なあるべき姿が一から模索されねばならなかった。

因みに、⁴「カッコいい」という言葉が『現代用語の基礎知識』に登場し、市民権を得たのも、実は非常に遅く、この時期だった。

小学館の二十代向けの女性誌『Ogg.i』（一九九一年創刊）は、「コンサバ」系の代表的な雑誌だが、「働く女性のためのファッション誌」をコンセプトに、一貫して、自立した「カッコいい」キャリア女性像をテーマとしている。

対象年齢は、二十代後半から三十代前半で、三十五歳前後をターゲットとした同社の上位誌『Domani』（一九九七年創刊）も同様だった（因みに、ogg.iはイタリア語で「今日」、domaniは「明日」という意味である）。

長く『Domani』編集部に在籍し、二〇一六年から一八年までは編集長を務めた福田葉子は、次のように語る。

「画誌とも、『日本のカッコいいキャリア女性、そのカッコいいおしゃれと生き方』が大きなコンセプトで、それは、読者にもクライアントにも周知されていました。

『Domani』（二〇〇四年二月号）では、『自分の脚で立つ』という特集を組みましたが、この言葉が象徴するように、'仕事を持ち、自活している'女性の『カッコよさ』がテーマでした。

ただ、『カッコいい』のは大前提として常にベースにありつつ、特集ではそれを、知的、美人、辛口、キリッと、凛と、りりしく、ハンサム、クールといった具体的な言葉で説明するようになっていました。

その中で、女らしさを足す、少し華やかに、地味にならないように、おしゃれに、センスよく、というニュアンスを工夫して、今の『カッコいい』って何だろう？ どうしたら、自分らしく『カッコいい』女性になれるだろう？ と試行錯誤しました。

『しなやかでカッコいい』女性像を探し出す、という流れを、時代に合わせて繰り返し作ってきたような気がします。

特集に関しては、むしろ、『カッコよすぎる』が故に、いかにしてエレガンスさ、女らしさ、華やかさを足すか、という視点の方が多かったと思います。」

キャリア女性にとっての理想像を、旧来的な「男の美学」としての「カッコいい」とは違ったかたちで、この時期、独自に探求していた編集部が伝わってくる。「カッコいい」が^は多様な意味を、一つ一つ解きほぐし、日常的な通勤ですぐに役立つように、具体的に紹介されている点は、メディアが果たすガイド機能の模範のようでもある。

コンセプトは福田の説明通りだろうが、一九九〇年代には、「カッコいい」という言葉は、誌面では用いられているものの、特集では使用されていない。

また、二〇〇七年以前は、まさしくファッション誌として、オフィスでの具体的な着こなしに関して「かつこいい」という言葉が用いられているが、〇八年以降の『D o m a n i』では、「かつこいい」女性像がより明瞭に謳われている。

やはり、「働く女性」をテーマにしていた講談社の『G r a z i a』（一九九六年創刊、二〇一三年休刊）もまた、二〇〇四年七月号の「創刊100号記念号」のテーマとして、「『格好いい女』になれますか？」を掲げている。カヴァーは、モデルの熊沢千絵である。

そのマニフェストとすべき主張はこうだった。

「人のせいにはしない。自分で選り取ったものだから、何があっても愚痴ったりしない。逃げない。追い求める世界のレベルが高いから、昨日より今日、今日より明日と努力を自分に課して、そんなの当たり前のことじゃない、と言つてのける。楽しいことしかしない。でもそれは、自分にとって何が大切なのか、何が幸福なのかを知り抜いているからこそできること。比較でものを考えない。他の誰かと自分を比べてみたつてしようがない。」

ここには、主体的に社会で生きる女性の理想像が、列挙されている。

しかし、決して女性だけに限った話ではなく、言い訳をしない強い責任感、理想に向かって努力を惜しまない態度、これ見よがしではなくクールであること、個人主義、……といった価値観は、そのまま男性に^は当て嵌めても、多くが同意を得られるであろう。むしろ、従来、「男らしさ」として特権的に語られてきた美德が解放され、共有されていると見ることも出来る。

ヨーロッパのモード誌のようなキメキメの「カッコいい」世界ではなく、むしろ、生き様にフォーカスされているが、ある意味ではこれも、アナ・ウインター以降の世界的な流れの一つとし

て見るべきかもしれない。

「巻頭ロングインタビュー『可愛い、だけじゃない、本物の魅力』の手に入れ方」で取り上げられているのは、大竹しのぶ、倍賞美津子、中村紘子、有元葉子と、憧れの対象である年上世代である。

当時、副編集長を務めた原田美和子は、次のように語っている。

「もともと（故）温井編集長は、『カッコいい』というのが好きな人でした。それで作り手の私たちの中でも、『カッコいい女』を目指そうとしていたところがあります。それまでの女性誌のような『モテたい』とか、『女の色気を出そう』といった男に媚びるスタンスではなくて、男に媚びないこと、男に好かれようとしなくてもいいじゃないと突き放していたんです。」

同じ「カッコいい」女性というコンセプトでも、小学館の二誌とは少し異なり、アンチ「かわいい」として、「男に媚びない」という点が強調されている点が興味深い。

「私は、『カッコよさ』とは自由さであると意識して誌面を作っていました。シワがあってもいいじゃないとか、死ぬ間際まで恋をするとか、それまでの女性にあったアンチエイジングではなくてエイジレスが『カッコいい』ということですかね。女の人が年を取ることが今以上に恐怖だった時代に、『いいじゃん、年を取るのがつてもつと楽しいよ』と宣言したのが『G r a z i a』でした。

その時、女優さんのグラビア写真でも、レタッチ（修整）作業をすごくしていたんですけど、それがなんだかイルカの肌みたいで気持ち悪いな、そのままでもいいじゃない、と言っていたのが温井編集長でした。」

加齢を肯定的に受け容れる、というのも、この時代の女性の新しい価値観だったが、更に原田は、自由であることの他に、福田と同様、知的であることの「カッコよさ」も強調する。

「ジャーナリストの兼高かおるさんをよく取材していましたが、彼女が言うには、男の人にモテたいなら知性を磨けと。だから、一流メゾンの特定ブランドを特集しなかったのには、モノに振り回されているようで『カッコ悪い』という考えがありました。ブランドではなく、自分の服は自分の知性で選ぶという考えです。」

「カッコいい」は、無論、女性にとっても多様であり、⁵『O g g i』、『D o m a r i』的な「カッコよさ」と『G r a z i a』的な「カッコよさ」とのどちらに共感するかは人によって違っだろうし、更に別の考え方もあるだろう。

（平野啓一郎『カッコいい』とは何か』一部改変）

*ミルトンのサタン……ミルトンの『失樂園』で描かれたサタンを“美しき反逆者、像の最も洗練されたものであると筆者は述べている。

*恰好が良い……筆者によれば、江戸時代に生まれた「恰好が良い」という言葉はそのジャンルにおける理想像

を指し、そのジャンルの専門家によって判断される。

*アナ・ウインター……イギリス出身のファッション雑誌編集者。現在アメリカ版『ヴォーグ』誌編集長。ファッション界に多大な影響を与える。映画化された『ブラダを着た悪魔』に登場する編集長のモデルと言われている。

問一 空欄 ー に入る最も適切な言葉を、次のア～エのうちからそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|---|---|-----|---|---|----|
| A | ア | しかし | B | ア | 畏怖 |
| | イ | すると | | イ | 忌避 |
| | ウ | まして | | ウ | 珍重 |
| | エ | むしろ | | エ | 排斥 |

- C
- | | |
|---|---------|
| ア | そうはいつも |
| イ | それはさておき |
| ウ | だからこそ |
| エ | つまるところ |

問二 波線部 a・b の言葉の本文中の意味として最も適切なものを、次のア～エのうちからそれぞれ選びなさい。

a あてどない

- | | |
|---|--------|
| ア | 終わりのない |
| イ | 心惹かれる |
| ウ | 作り物めいた |
| エ | 目的地のない |

b 邁進

- | | |
|---|---------------------------|
| ア | 目的を達成するために精神を集中して努力すること |
| イ | 目的に向かってひるむことなくまっすぐ突き進むこと |
| ウ | 少しでも早く目的に至るために様々な方策を使うこと |
| エ | 一度決めた目的を変えることなく着実に進んでいくこと |

問三 傍線部1「かわいい」だけでなく「かわいい」人が必要だ」とあるが、その理由について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 「かわいい」だけでは抽象的なので、「かわいい」人として具体化しなければ、読者にうまく理解されないから。

イ 読者が「自分探し」を目的として「かわいい」を見つけようとする時、「かわいい」人とする行動が理想的なガイドになるから。

ウ 流行を形成するためには、「かわいい」人が物語の登場人物となり、その物語が多くの人に消費されなければならないから。

エ 「かわいい」人が人生の様々な状況の中でどう行動するかを通して、「かわいい」が発見できるから。

オ 「かわいい」人は実在の人物として「かわいい」以外の特徴も有しており、それらも含めてはじめて読者の憧れの存在となるから。

問四 傍線部2「キモかわいい」だの「エロかわいい」だのと、細分化された造語が生まれていった」とあるが、その理由について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア ある対象が持つ様々な特性を統合して「かわいい」と呼んだが、その中のある特性について特に強調したいから。

イ どのような対象についても「かわいい」と言うことはできるが、場面や対象の状況によって「かわいい」という言葉の意味が変わるから。

ウ 「かわいい」という言葉は様々な意味を持つが、従来の「かわいい」に含まれていない側面を持つ対象についても「かわいい」と言いたいから。

エ 「かわいい」という言葉でくくられる多くのものの中から、ある対象だけを特別に取り出したいとき、その「特別さ」について言及しなければならないから。

オ 「かわいい」とは何かを一言では的確に言い表すことが難しいので、造語を作って表現する他はないから。

問五 傍線部3 「カッコいい」との対比」とあるが、「カッコいい」と「かわいい」とについて述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 従来、「カッコいい」人は男性に限られ、「かわいい」人は女性に限られていたが、近年はこれが逆転しつつある。

イ ある対象に「カッコいい」と言う場合は憧れと尊敬が含まれているが、「かわいい」と言う場合は憧れや尊敬は含まれない。

ウ 「カッコいい」には何かと戦い相手を打ち負かすイメージがあるが、「かわいい」には何かから庇^{かば}い守つてあげたいイメージがある。

エ 「カッコいい」という感覚はもともとグローバルに通じるものであるが、「かわいい」という感覚は日本的なものであり「Kawaii」として外国にも影響を与えている。

オ 「カッコいい」と言う場合は「こうありたい」という自分の理想の未来を重ねており、「かわいい」と言う場合は「こうありたかった」という自分の理想の過去を重ねている。

問六 傍線部4 「カッコいい」という言葉」が女性に対して使われるようになった事情について述べた次のア～オのうちから、最も適切なものを選びなさい。

ア 安室奈美恵はじめ「カッコいい」女性が音楽シーンで活躍することに触発されて、企業等で働く「かわいい」OLが「カッコいい」を目指すようになった。

イ 女性の社会進出が進み、職場でのあり方や働き方が変化する中で、従来の「かわいい」女性像とは違った主体的に社会で生きる女性の理想を言い表すのに、「カッコいい」という言葉が選ばれた。

ウ 社会で活躍するためには「かわいい」ではなく「男らしさ」が必要であるが、女性の場合には同様の意味ではあるがジェンダーレスの「カッコいい」と呼んだほうが適切だとされた。

エ 女性が男性と同等に働きキャリアを築いていくということは、男性の庇護下にあるのではなく男性と戦うということであり、「かわいい」ではなく「カッコいい」でその覚悟を示した。

オ 「かわいい」は男性から女性に発せられる性的な意味を含む言葉であり、男女が対等である職場ではジェンダーレスで性的な意味を含まない「カッコいい」がふさわしいと考えられた。

問七 傍線部5「『Ogg-i』、『Domani』的な「カッコよさ」と『Grazia』的な「カッコよさ」とあるが、それぞれの雑誌について述べた次のア～オについて、両者に共通するものにはaを、『Ogg-i』、『Domani』だけに当てはまるものにはbを、『Grazia』だけに当てはまるものにはcを、どちらにも当てはまらないものにはdを、それぞれマークしなさい。

ア 知的であることは「カッコいい」ことであると考えられている。

イ 「働く女性」をテーマに、社会で生きる自立した「カッコいい」女性像を提案している。

ウ 読者がすぐに取り入れられる手本として、具体的に「カッコいい」着こなしを紹介している。

エ 従来女性の魅力だと考えられてきた「かわいい」を否定し、男に媚びないことが「カッコいい」ことだと考えられている。

オ 欧米の最新モードも「カッコいい」ものの一つとして紹介し、様々な「カッコよさ」を提案している。